**第二次世界大戦中の釧路**

第二次世界大戦中には、日本中の都市が連合軍からの攻撃を受けました。女性と子どもは、落ちてくる瓦礫と炎から身を守るために、詰めものをした布製の防空頭巾を身につけていました。この戦争が終わる 1 ヶ月前、米国第三艦隊の空母から飛び立ったグラマン F6F ヘルキャット戦闘機が、北海道中で空襲を開始しました。1945 年 7 月 14 日と 15 日の空襲は、釧路と、北海道・本州北部のその他の街を標的にしていました。

この 2 日間に、釧路は 8 回攻撃されました。主な標的は、工場、鉄道、漁船および学校でした。市街地への激しい攻撃の目的は、人々の士気を下げることだったと考えられます。釧路市街地の幣舞橋は、損害を受けたものの破壊はされませんでした。幣舞橋のアールデコ様式の石柱のひとつは川に落下し （その上部は博物館の入口に展示してあります）、鉄製の側面部分は機銃掃射を受けました。幣舞橋の厚さ 10mm を超える鉄板に銃弾で穴が開いたものが、博物館に展示してあります。この 2 日間で 193 人が死亡し、500 人を超える人々が負傷しました。死者の約 6 割は、空襲で起きた火災によるものでした。